

な ならしの ら た はたらく く



～夢に向かって共に働く願いを込めて～

習志野
在住

田中佳子選手

北京パラリンピック日本代表

を応援しよう!



北京 2022 冬季パラリンピック・アルペンスキー（座位）に習志野市在住・田中佳子選手が出場を予定しています。田中選手は先天性の脛骨形成不全により3歳の時に両下肢を切断。医療関係の道を志し、一度は臨床検査技師の仕事に就きましたが、社会人2年目のある日、知人の勧めで脚に障がいがあってもできるチェアスキーに出会います。本格的にレースの世界に入ると国内大会だけでなく、ヨーロッパ、アメリカと世界で行われる大会にも参戦するようになり、過去3度のパラリンピックや世界大会で活躍されました。自分自身や大自然に向き合い奮闘を続ける田中選手。次のパラリンピックへの意気込みや共生社会に対しての考えを語ってくれました。

北京パラリンピックに向けて!

取材日の1月11日は、練習拠点の米国より帰国も都内のホテルで待機期間中であった田中選手。もちろん、その間は練習ができません。しかし、コロナに感染すると大会参加も難しくなるので感染しないことを第一優先にして行動しています。大会に向け、何がベストな選択・判断か自問自答したり、周りの人の意見を聞いたりしながら準備しています。



目標は!

北京 2022 大会では、もちろん表彰台を目指しています。そして、後悔のない思い切った滑りをしたいと思います。なるべく長く競技を続けていきたいですが、スキーをやめる時は、もっと「ワクワクすること」を見つけたいと思っています。スキーの楽しさを様々な人に伝えたいとも考えています。

共生社会をめざして

アメリカで生活していると、義足を自然に受け入れている雰囲気を感じます。

日本と何が違うのか、何が必要なのかは正直分かりません。ただ、今回の東京パラリンピックの開催で障がい者がテレビに映る機会が増え、私の周りにも少し変化があったように感じました。おそらく、障がい者を見知ったりする機会が増えたからでしょう。“知らない”“良くわからない”ことに抵抗を感じるのは、当たり前だと思います。

私が小学校の講演会で話をすると、耳を傾けてくれる児童・生徒がすごく多いと感じます。幼い頃から、障がい者に馴染みがあると偏見が少し減るのかなとも思います。



大切なこと

社会人になり、仕事をしていた時に大切と感じたことは、何事も“1回は頑張ってみる。そこで難しいことは、色々な人に相談してみる。”ということです。きっと大切なことは、コミュニケーションなんだと思います。知ってもらっただけでなく、こちらも知る。寄り添ってもらっただけでなく、寄り添う。そういう双方向の関係性を築くことが重要だと思います。

取材後記

- オンラインの画面越しにも伝わってくる田中選手の自然体で明るい受け答えが印象的でした。いつも「ワクワクすること」を求めて全力投球されてきた結果が、今に繋がっているのだと感じました。(武井)
- 障がいへの社会の理解が表面的な情報に留まってしまっていることが障がい者の方の本当の「生きづらさ(障がい)」です。パラを通じて選手一人ひとりの人間性まで皆さんに届けられると良いですね。(松尾)

「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」を開催しました。



令和3年12月3日に習志野商工会議所にて、「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」を開催しました。今回の講座はハローワーク船橋さんの全面協力の下、雇用の場において障がい(者)についての正しい知識と理解を深め、温かく見守り、支援する応援者(=サポーター)となっていただくことを目的とした講座です。

当日は障がい者雇用を検討している、もしくはすでに雇用されている企業さんを中心に20名の方が参加され、分かりやすい事例をもとに障がいのある方と共に働く上でのポイントや障がいの有無に関係なく、誰もが働きやすい職場づくりのヒントが、たくさん盛り込まれていました。

子育てシトあるある

わたしたちは、『きらっといっぽの会』(※♪)です。市のホームページに子育てエピソードを連載しています。子育ては障がいのある子もない子もいっしょです。ぜひごらん下さい!



絵：遠藤 美里

『わかっているようで』

一度目の緊急事態宣言中の出来事です。息子には「宣言中は、床屋さんに行くのは少しガマンしようね」と伝えてありました。

床屋さんは営業していましたが、外出を控えるように言われている中、行く事はないか、と思っていたからです。

しかし、ある日、気づいたらジョッキン、なんとも残念な髪形に…。本人いわく、「前髪がのびたから床屋さんに行きたかった!」そうです(笑)。

丁寧に説明すると、なんで今は行かないほうがいいのか、そして、落ち着いたらまた行けるようになることも理解してくれました。

この一件で、わかっているようで実はよくわかっていない事がよーくわかりました。かみ砕いた言葉で丁寧に説明することの大切さをまた思い知らされたエピソードでした。

(※♪)『きらっといっぽの会』

市の発達支援施策について市民と市が協働で考える、「市民協働こども発達支援推進協議会」から生まれた会です。



他のエピソードも絶賛公開中!
このQRコードから
ホームページをご覧ください

【お問い合わせ】習志野市障がい者地域共生協議会 (通称「ならとも」)

…障がい当事者の家族、福祉事業所、行政機関の職員等が集まり、障がい者の地域生活を支えるための活動や検討会を行っています。

事務局：習志野市 障がい福祉課 習志野市鷺沼2丁目1番1号
電話 047 (453) 9206 FAX 047 (453) 9309

ならたく 習志野

検索

